

CSPC Pharm (1093 HK)

中国 / 医療 & ヘルスケア / 決算ショートコメント

14 年度上半期の決算の結果は部門で明暗

- 公表純利益は 17%増だったが、実質ベースでは 50%増加した
- NBP/ Oulaining の売上高は 43%/30%増加し予想通りだった
- 抗生物質事業は大きく好転した
 - しかし、14 年度第 2 四半期に完成薬の EBIT の伸びは鈍化した

2014 年 8 月 27 日



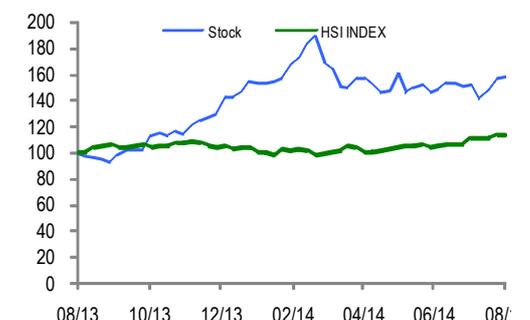
予想の修正 (%)

12 月 31 日決算	14 年度予想	15 年度予想
売上高の変更	N.A.	N.A.
純利益の変更	N.A.	N.A.
EPS の変更	N.A.	N.A.

主な銘柄データ

52 週間の高値/安値	8.49 / 3.71HKドル
30日間の1日平均出来高	15.07 Mn
発行済み株式数	5,908.02 Mn
時価総額	39,111.08 Mn
主要株主	Legend Holdings (62.26%)

株価パフォーマンス



主要財務データ

12 月 31 日決算	2012 年度		2014 年度	
	2012 年度	2013 年度	2014 年度 予想	2015 年度 予想
売上高(100 万 HKドル)	4,146	9,949	10,809	12,282
伸び率 (%)	72	140	9	14
純利益(100 万 HKドル)	2,162	973	1,274	1,741
伸び率 (%)	508	(55)	31	37
EPS (HKドル)	1.478	0.175	0.220	0.296
伸び率 (%)	397	(88)	26	35
PER (x)	4.5	37.9	30.1	22.4
DPS(HKドル)	0.100	0.080	0.099	0.133
イールド(%)	1.5	1.2	1.5	2.0

出典: 会社データ、京華山一予想

最新情報

CSPC の 14 年度上半期の決算は、売上高が 5.3%増の 53 億 4,200 万 HKドル、純利益は 6 億 100 万 HKドルになった。前年同期との比較のために売却益ならびに株式報酬の影響を除いた実質的な純利益は、50.4%増の 6 億 5,400 万 HKドルだった。

当社の見方

14 年度第 2 四半期に実質的な成長は加速したが、完成薬の EBIT の伸びは鈍化した ペニシリン中間体事業の売却益ならびに株式報酬を除いた 14 年度第 2 四半期の実質的な純利益は、61%増の 3 億 4,800 万 HKドルになり、伸び率は 14 年度第 1 四半期の 40%増を大きく上回った。これは、抗生物質事業の改善ならびに合併事業の損失縮小が要因だった。しかし、14 年度上半期に完成薬の EBIT は腫瘍治療薬の収益性の低下ならびにいくつかの革新薬の利益率の低下が原因で 24.5%の増加(14 年度第 1 四半期: 29.9%増)に留まった。

NBP/ Oulaining の売上高は 43%/30% 増加し、満足できる結果となった 14 年度第 1 四半期に 49%/24%/42%の増加を記録した同社の主力薬である NBP/Oulaining/Xuanning の 14 年度上半期の売上高は 44%/30%/31%の増加となった。地方の入札実施ペースが依然として鈍かったことを考えれば、当社は NBP ならびに Oulaining の売上高の伸びは満足できる結果だったと考えている。しかし、価格下落圧力に晒された Xuanning の売上高の伸びは期待外れの結果となった。

14 年度下半期に腫瘍治療薬の伸びが加速する 腫瘍治療薬 (Duomeisu, Jinyouli, Ailining がそのほとんどを占める)の総売上高ならびに EBIT はそれぞれ 1 億 1,200 万 HKドル(前年比 71%増)、2,700 万 HKドルになった。地方の入札実施予定数が増えていること、病院のカバー範囲を強化していること、イマチニブメシレート錠などの新薬の発売が控えていることから、経営陣は、同部門の 14 年度/15 年度の目標売上高である 2 億 5,000 万 HKドル/5 億 HKドルの達成に自信を持っている。

一般ジェネリック薬の粗利益率が改善 CSPC が売上高の増加ではなく収益性の向上に重点を置いたことから、一般ジェネリック薬の売上高は横ばいとなったが、経営陣によれば粗利益率は 2.4 ポイント向上した。

API 事業はまちまちの結果になった 14 年度上半期に抗生物質の EBIT は、赤字事業の売却ならびにコスト削減努力のおかげで前年比 226%増の 7,500 万 HKドルになった。しかし、ビタミン C 事業は依然として 1,800 万 HKドルの営業赤字を計上し、カフェイン事業の EBIT は 33%減少した。

免責条項: 本資料は、情報の提供のみを目的としたものであり、有価証券の売買の推奨を意図したものではありません。コアパシフィック山一インターナショナル(香港)は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。本資料は、信頼に足ると考えられる情報源を基にしておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料内で示す内容は予告無く変わる場合があります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。コアパシフィック山一インターナショナル(香港)またはコアパシフィックグループの企業、同グループに關係ある個人は、本資料の使用または本資料への信頼に起因するいかなる法的責任も負いません。当資料の一切の権利はコアパシフィック山一インターナショナル(香港)に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱等に関する規則(平 14.1.25)に基づく告知事項>
本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。